

◆日本共産党は、大軍拡・大増税許さず、命と暮らしを守る政治実現に全力を尽くします

休日当番病・医院

4月30日(日)

- ◆内科 夜間・休日急病センター 旭町 32-0099
- ◆外科 苦小牧東部脳神経外科 北栄町 53-5000
- ◆歯科 あおぞら歯科医院 拓男西町 57-4618

診療時間：内科＝9時～翌朝7時、外科＝9時～17時、歯科＝9時～12時。本紙は毎週火曜日に編集のため、その後に休日当番医が変更になってもお知らせすることはできません。ご利用される際には、あらかじめ電話でお確かめください。

法律相談

しんぶん赤旗読者のための
親身な相談で定評

5月25日(木)

橋本 祐樹 弁護士

(定員になり次第締め切ります)
日本共産党苦小牧地区委員会
苦小牧市見山町2-2-6 申込 56-5002

日本共産党

民主苦小牧

発行 日本共産党苦小牧地区委員会

苦小牧市見山町2丁目2番6号 電話 56-5002 fax 56-5086
日本共産党のホームページ <http://www.jcp.or.jp>
苦小牧市議団ホームページ <http://toma-jcp.sakura.ne.jp/>
eメールアドレス commun@rose.ocn.ne.jp

■日本共産党候補の結果

●苦小牧市議選(定数28)

当 5 森本 健太	2,306
当 13 小野寺 幸恵	1,947
当 19 富岡 隆	1,740
当 22 原 啓司	1,709

●厚真町議選(定数11)

当 4 伊藤 富志夫	276
------------	-----



1議席増の選挙結果を報告する当選した4氏(24日)

当確の報に接したとき、涙を流し喜びを表した森本候補は、最年少で初当選。「前回48票差で次点だったことをパネにこの4年間、生活相談やフードバンクなどの活動を通

原啓司(54)の3候補と新人の森本健太候補(30)が当選しました。共産党市議団は4議席へ前進し、常任委員会すべてに議員を配置でき、質問時間が増え、発言力とチェック機能が高まります。

各候補は、子育て支援充実のまちづくりとゼロカーボン(地球温暖化対策)のまちづくりの2つを政策の柱として、とくに市長や他会派が背を向けてきた子ども医療費助成の拡充や、気候危機打開に向けた地産地消エネルギーの推進、カジノ誘致反対などを掲げ、訴え抜きました。大軍拡を進める岸田政権に対し「非核平和都市条例をもつ苦小牧市から厳しい審判をくだそう」と呼びかけ、共感を広げました。

子ども未来に命と暮らし一番のまちへ

苦小牧市議選 共産党が前進4議席獲得 質問時間が増



■厚真町議選 伊藤候補3選 住民の命と地域経済を守る

告示日(16日)に紙智子参院議員が応援にかけつけ、また宮川潤前道議や橋本祐樹弁護士らが選挙期間中、各候補に随行し応援演説などを展開しました。

伊藤候補は、「暮らしに希望の声を聞いてきました。若者も高齢者も安心して住み続けられる苦小牧にしたい」と力を込めました。

結果を受けて、小野寺市議団長は、「3人から4人の市議団を実現でき、感謝の気持ちでいっぱいです。30歳の森本さんが加わり、メンバーの年代も広がり、色鮮やかな市議団になり、岩倉市政と対峙する最強のチームです」「子どもの医療費の無料化、屋内公園の設置、医療・介護の充実、地球温暖化対策など、みなさんに約束した公約実現のため、よりいっそうがんばる決意です」「何より平和！子ども未来にきれいな地球を！命と暮らし一番のまちへ！日本共産党だからこそできる課題に向かってしっかりと働きます」と語りました。

厚真町議選は定数11人の議席に候補者13人による8年ぶりの少数激戦の選挙となり、日本共産党現職の伊藤富志夫候補(68)は3期目の当選を果たしました。

伊藤候補は、「暮らしに希望のまちを厚真町に」として地震からの復興と巨大地震対策、住民の命と地域経済を守る町づくりを訴えました。とくに社会保障の充実、子育て支援の充実、地場産業の支援、自然豊かなまちで平和な地域

「共産党が訴えてきた、カジノより子育て支援、何より平和、憲法9条を生かした平和外交こそ最善の道をはじ

公約実現の闘いに勇躍したい

選挙結果を受けて24日、共産党苦小牧地区委員会の西敏彦委員長(選対本部長)は、みなさんの支援と勝利への奮闘に感謝をのべ、「苦小牧では4人の市議団を実現でき、とくに森本候補は新人として最多得票数で当選を勝ちとる快挙です。厚真町では少数激戦で他候補が得票減のなか、伊藤候補が過去の得票と当選順位を確保する快挙です」と強調しました。

「岸田政権の大軍拡と戦争国家づくりの暴挙は、世界史の大局的発展への大逆流です。国民の生活がかつてない危機に直面しているもつと、日本国憲法の精神を真つ向から踏みとじるものです」と批判し、「岸田内閣打倒の旗を高く掲げ、市民・町民の運動と連帯し、公約実現のたたかいに勇躍します」と力を込め語りました。

「社会をめざすことを公約に掲げてたたかいました。」

「岸田政権の大軍拡と戦争国家づくりの暴挙は、世界史の大局的発展への大逆流です。国民の生活がかつてない危機に直面しているもつと、日本国憲法の精神を真つ向から踏みとじるものです」と批判し、「岸田内閣打倒の旗を高く掲げ、市民・町民の運動と連帯し、公約実現のたたかいに勇躍します」と力を込め語りました。

め、物価高騰の生活苦から暮らしと命を守るための積極提案は、どこでも共感を広げ、期待の音が寄せられました」と報告。「国際勝共連合(統一協会)の謀略ピラの配布や反共キャンペーンがされ、高齢化が進む選挙活動のなかでの勝利であり、今後の前進・躍進に向けた足がかりとなるものです」とのべました。

マイナカード強制になる健康保険証の廃止撤回を

大軍拡・大増税NO

対話の外交で平和を守ろう

日本共産党

健康保険証廃止は撤回せよ

高橋議員 マイナ法改定案審議で迫る



べ方は変わる。一概に答えるのは困難だ」とのべ、情報流出を探究できない可能性を認めました。

高橋議員は、本人が申請窓口に出向けないケースについて質問。同庁の村上敬亮統括官は「代理人が書類を提出する」とし、マスキングしてもその暗証番号は誰が決めるのかと聞くと、「検討中」だと答弁しました。高橋議員は、「認知症の家族から、口が開

いたままなど適切な写真が撮れないと却下され、仮に認められても心情的に耐えられないとの声がある。そこでマイナ保健証をつくる必要があるのかと批判しました。高橋議員はまた、保険証廃止後に受診のために発行される「資格確認書」は、現行の保険証と同じだと指摘。現在でも医療情報は連携しており、医療機関は保険証の記号・番号で医療情報を閲覧していると強調しました。政府がカード取得を迫るのは、「個人情報利用活用の拡大が狙い」として、保険証廃止の撤回を強く求めました。

日本は核兵器禁止条約参加を

5月25日に国民平和大行進 通し行進再開

核兵器廃絶と被爆者援護を訴えながら、被爆地広島・長崎をめざして歩く「2023年原水爆禁止国民平和大行進」の全国縦断幹線・北海道コースが5月7日に礼文島を66回目で、今年も、コロナ禍で中止し

休日当番病・医院

- 3日(水) 憲法記念日
 - ◆内科 夜間・休日急病センター 旭町 32-0099
 - ◆外科 苦小牧消化器外科 北栄町 51-6655
 - ◆歯科 佐賀歯科医院 豊川町 76-8878
 - 4日(木) みどりの日
 - ◆内科 夜間・休日急病センター 旭町 32-0099
 - ◆外科 苦小牧泌尿器科・循環器内科 明野新町 57-0455
 - ◆歯科 田村歯科医院 日吉町 72-2308
 - 5日(金) こどもの日
 - ◆内科 夜間・休日急病センター 旭町 32-0099
 - ◆外科 みらい整形ペインクリニック 北栄町 53-7100
 - ◆歯科 やよいフレンド歯科 弥生町 75-2000
 - 7日(日)
 - ◆内科 夜間・休日急病センター 旭町 32-0099
 - ◆外科 こうよう泌尿器科クリニック 光洋町 82-8620
 - ◆歯科 いずみの歯科クリニック 川谷町 76-0178
- <診療時間は表面に記載しています>

生業と暮らし守るために
インボイス
実施中止を
日本共産党



ていた全国通し行進者の行進を4年ぶりに取り組めます。

府は核兵器禁止条約に参加を「ロシアは侵略と核兵器による威嚇をするな」「戦争の危険を招く大軍拡、軍事同盟強化に反対しよう」などを掲げています。

今年も、「歩く」ことを基本に、コロナ感染防止の対策をとりながら、地域住民にアピールすることを意識して、知恵と工夫を出し合い行進参加を呼びかけています。なお集会会場は未定です。

●お知らせ
日頃からの「愛読ありがとうございます」
本号は、4月30日付号と5月7日付号との合併号となりますので、7日の発行は休ませていただきます。ご了承ください。
次号の発行は、14日付号となります。

民主苦小牧 編集部

政治を変える
日本共産党の訴え



統一地方選挙が終わりました。東京の江東区と杉並区に入ったのち、16日は苦小牧市と恵庭市、22日は帯広市、士幌町、音更町に入りまし

国会かけある記 紙ともこです

肌寒く、雨や強風のなかで集まってくださった後援会のみなさん、ご近所のみなさんの姿には頭が下がりました。

地域ごとに事情が違いますが、議員団の実績や値打ちをおさえて、押し出しポイントを考えながら訴えましたが、改めて実績や候補者のみなさんの人柄を知ると、思わず胸が熱くなります。



雨の中、森本候補を応援する紙議員 (16日)

苦小牧では、早くに親を亡くした弟たちと生きたなかで、「誰もが人として尊重される社会をつくらう」「希望を捨てなくてもいい社会をつくるために政治を変えよう」と訴える姿に感銘しました。恵庭市は、前回共倒れで空白になったけれど、市議会を毎回傍聴。そのなかでコロナ禍に住民の切実な声に応えきれない市議会を見て、市民の声が届く市政を市民と一緒につくりたいと、思いを込めて訴えていました。

紙智子(かみ・ともこ) 日本共産党参議院議員

中学卒業まで通院に助成を。「乳幼児等医療費助成制度の年齢拡大を求める署名」にご協力をお願いします。